

表現の自由

★「びじゅつ」に会いに出かけよう
『るぶ びじゅチューン!の旅』
JTB パブリッシング [706]

世界中の美術を、独特でゆるやかなアニメと歌で紹介する NHK の E テレ番組「びじゅチューン!」。この本は、番組で紹介された作品が実際に見られる、日本全国 27 か所のガイドブックです。美術作品って難しそうでよくわからない? いえいえ、作品を見てどんな想像をしても、見る人の自由です!
今はまだ、なかなかお出かけが出来ないけれど、今のうちに番組とこの本を読んで予習してみない? YouTube の公式チャンネルでも動画が見られます。1 作品につきだいたい 1 分半くらいの歌なので、ちょっと息抜きにはピッタリだよ。私のお勧めは「鳥獣戯画ジム」!



★天高く舞う、華麗な演技
『Two - Sideways 二刀流 平野歩夢』
篠崎公亮/写真 KADOKAWA [784]

この前開催されたばかりの北京オリンピックで、みごとスノーボードハーフパイプ金メダルを獲得した平野さん。金メダル獲得と、冬季オリンピック 3 大会連続メダル獲得は、どちらもスノーボード種目で日本人選手初の偉業でした。
この本はスケートボードとスノーボード、2つの競技で夏と冬のオリンピックに挑んだ平野さんの3年間を追った写真集です。何となく、ボードに乗って滑る、よく似た競技に思えてしまうけれど、ルールも体の使い方も全く別物なんだそう。その証拠にどちらの競技でもトップ選手として両立できている人は、それまで一人もいませんでした。東京オリンピックでは残念ながら決勝に進むことはできませんでしたが、平野選手の二刀流の挑戦はこれからもまだまだ続くそうです!

ずっと俺のターン!



スガッ

とする本

★「青春と格闘するすべての人を祝福」する本
『青春迷宮』伊波真人・丸紅茜/著
KADOKAWA [726]

きれいでオシャレなイラストと、切なく響く短歌のコラボ世界にご案内。イラストをたっぶり見てもらいながらブックトークしようと考えていた本です。いくつか短歌を紹介するね。
「星座にはなれないほどに離れてるきみの机とぼくの机は」
「踊り場でいつも見かけるカップルは北極星のようにとどまる」
「アルファルドが心臓ならば学ランのボタンはどんな星座だろうか」
「冬空をともに仰いだあなたにはみえない星を胸に灯して」

ドキドキ♥



★ISS ミッションクリア! 次は月、そして火星?
『さばの缶づめ、宇宙へいく』
小坂康之・林公代/著 イースト・プレス [667]

2020.11.16 野口聡一宇宙飛行士が搭乗したクルードラゴン「レジリエンス号」は宇宙へ飛びました。レジリエンスは、困難から回復するという意味が込められていたね。宇宙食の動画は見た? 宇宙食さば缶は、若狭高校の生徒が 14 年かけて宇宙に飛ばした夢だったんだ。野口さんは、「小さなさば缶だけど、日本の高校生にとっては大きな跳躍」とクリスマスに食べてくれました。これはうれしい! 今、高校生は宇宙食と災害食のコラボを考えたり、宇宙飛行士に不足する栄養素を入れようと挑戦しています。生徒も先生も野口さんも、ほんとカッコよくて、ムネアツ!

その発想はなかった



★疲れた時の癒しといえば…
やっぱりおやつでしょ!
『ザッパなおやつ』
riyusa/著 小学館 [596.6]

タイトルの「ザッパなおやつ」とは、「大ざっぱに作ってもおいしいレシピ」という意味だそう。少ない材料で、工程も大体3、4ステップ程と、どのレシピもとってもシンプル。でも、市販のお菓子をフル活用して作るの、味も保証付きなんです。出来上がるまでのワクワク感や、出来立てを食べる喜びも味わって!

うま



★七夕によせた、七つの物語
『ねがいごと』
田丸雅智・廣嶋玲子/ほか著
静山社 [913.6 初]

七夕をテーマに、7人の作家が短編を書きました。
一つ紹介すると、「恋寺」(楠木誠一郎/作)は、のちに伊達政宗となる梵天丸(幼名)が山寺で修業している時の淡い恋心のストーリー。あの有名な、仙台七夕まつりの起源を連想します。「伊達男」なんて言葉が残っているくらいです。どんな人物だったのか、いつか仙台を訪れてみたいね。



じんわり

★もやもやに押しつぶされる前に。
『しんどい時の自分の守り方』 増田史/著
ナツメ社 [371.4]

これといった理由もないのに、もやもや気持ちが落ち込んだり、イライラしたり、どうしようもなくしんどいこと、あると思います。周りには明るく元気にふるまっていますが、一人になるとずーんとダウンしちゃって人も、いるかもしれないね。

この本は、しんどさを手放すために、まずは自分でできるケア方法、そして誰かに SOS を出すスキルを教えてください。たくさんヒントのなかから、あなたに合った方法が見つかって、少しでもラクになりますように。



★もしも宝くじが当たったら…なんて妄想したことない?
『百万ポンド紙幣』 マーク・トウェイン/作
理論社 [933 トリ]

とあるアメリカ人の男が海で遭難してロンドンにたどり着くが、服はボロボロの一文無し。道に落ちている食べ物を拾って食べようか悩んでいると、年老いた二人の紳士から一通の封筒をもらいます。中には一枚の百万ポンド紙幣。百万ポンドは日本のお金にすると、なんと約1億5600万円! このお札は、かつてイングランド銀行が、ごく限られた数だけ発行したとても貴重なものでした。あまりに高額な価値があるため、普通のお店の買い物では、おつりが出せず使えません。また、銀行に持って行ったとしても、どうしてこんなに貴重なものを持っているのか問詰めて、捕まってしまうでしょう。果たしてこの男の運命は…!? 『トム・ソーヤの冒険』などで有名なマーク・トウェインの、どんでん返しがつまった短編集です。ヨシタケシンスケさんのかわいい挿絵にも注目だよ!

億り人



★転換期と一緒に!
『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』
内田樹/編 晶文社 [304 本]

中高生に向かって、「もう少しまともな社会を手渡したんだけど、うまくゆかなかった。ごめんなさい。」なんと謝罪からはじまる本。どういこと!? でも落ち着いて。この本に原稿を寄せてくれた、作家のみなさんはじめ、多くの大人は、このパンデミックであらわになった日本社会のマイナスを悔しく思って、まだまだ頑張るつもり。読んでみると、色んなヒント、見つけたよ。感性とは「おや?」と立ち止まるべきタイミングに気がつく力。「なんとなく」を知覚できる力が感性。ちょっと難しいかもしれないけど、こんな本が作られる日本は、捨てたもんじゃないって思えるな。みんなはどうかなあ?



まじ大丈夫

パアアアア

★古墳時代のおにぎり出土! ?
『おにぎりの文化史 おにぎりはじめて物語』
横浜市歴史博物館/監修
河出書房新社 [383.8]

おにぎりというファーストフード。定番は昔話に出てくるような、ころりん、としたやつ。最近じゃ「映える」だとか「おにぎらず」だとか「悪魔の」とかあるそうだけど、その辺はワタクシ疎いぞ(笑)。おにぎりの歴史はスゴイ。炭化した米の塊はけっこう出土されているそうだよ。真っ黒です。でもお米のつぶつぶがわかる。日本人の生き様が、おにぎりに表れているよ、ソウルフル! おにぎり一個食べられれば、人間何とかなるもんさ…古代のキオクが自分の中にも!? 安心と希望をくれる本。

ミツクミ

